

台風第10号の接近に伴う農作物等の管理対策

令和元年 8月13日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が8月12日16時35分に発表した「北陸地方週間天気予報」によると、向こう一週間の最高気温は35℃以上の高い日が多く、15日には37℃となる見込みです。

また、8月13日9時50分に気象庁が発表した「台風5日進路予報」によると、台風第10号は15日から16日にかけて四国・中国地方を通り北上し、16日に本県に最接近する見込みです。

フェーンによる農作物等への被害を抑えるため、今後の台風情報に十分注意し、農作物等の適切な管理等に努めてください。

1 水 稲

[事前対策]

コシヒカリ等の中晩生品種は、着色粒等の障害の発生を防止するため、用水の供給状況を確認して、速やかに湛水する。

[事後対策]

台風通過後は自然落水を待ち、飽水管理に移行する。

2 大 豆

[事前対策]

暗きよが閉栓していることを確認するとともに、畝間かん水等を実施し、水分の保持に努める。

[事後対策]

フェーンにより更に土壌水分が不足した場合は、莢数の減少防止や子実肥大を促進するため、再度、畝間かん水等を行う。かん水は、ほ場全体に水が回ったら直ちに排水する。

3 園芸関係全般

[事前対策]

(1) ほ場や育苗中のポット・トレイの乾燥を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。特に砂丘地では、飛砂防止も兼ねて風が強くなる前からスプリンクラー等で十分にかん水を行う。

(2) 施設では、温度上昇を抑制するため遮光資材の内張りや葉面散水・通路かん水の実施で葉焼けの発生を防止する。

(3) 花き球根類の種球貯蔵にあたっては通風等に留意し、貯蔵庫内温度の低下に努める。

[事後対策]

(1) 脱水症状が見られる作物は、速やかにかん水する。

(2) 高温時に収穫した切り花は、花しみ障害等の発生を防止するため、速やかに涼しい場所で水揚げを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。

4 畜産

[事前対策]

- (1) 熱射病等の家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システム等の暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。
- (2) 給餌による急激な体温の上昇を防ぐため、多回数給与や朝・晩の涼しい時期に給与し、新鮮な水を常に十分飲水できるようにする。

[事後対策]

- (1) 熱射病等により家畜に急激な体調の変化が見られる場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。
- (2) 家畜の死亡被害があった時は、速やかに化製場に搬入する等の確な処理を行う。

5 きのこと

[事前対策]

散水・空調等で温度管理に努めるとともに、きのこについては品質低下前の早期収穫に努め、収穫後は保冷库等で保管する。